

統合小学校建設候補地に係る懇談会の開催結果

◎懇談会の開催状況

開催日	開催場所	出席者数	開催日	開催場所	出席者数
10/24	永井市民センター	16名	11/ 7	花泉市民センター	15名
10/26	涌津市民センター	11名	11/ 9	日形市民センター	9名
10/31	油島市民センター	11名	11/10	老松市民センター	13名
11/ 2	金沢市民センター	11名	7地区7会場		86名

◎主な意見・要望等（全会場集約）

【候補地について】

- * 候補地は、わかりやすい場所であり、通学においても高低差が少なく、中学校・図書館との連携も図られ良い場所と思う。
- * 以前、花泉バイパスが冠水したが、この付近は冠水しなかった。最適の場所と思う。
- * 複数案でなく1案で良かったと思う。複数案だと駆け引きが生じ、もめる原因になったと思う。
- * 地価を勘案した場合に、中心部を外したほうが財政的に良いのではないか。
- * 中心部が前提ではなく、子どもの教育環境、安全性を優先させるべきではないか。
- * 地震災害等も踏まえた地盤を考慮してほしい。
- * 自然の多い場所では、子どもたちがルールを作る。その時期にしかできない体験をさせるべきではないか。また、ゆとりの空間を加味してほしい。

【施設整備について】

- * 統合小学校には十分な駐車場を確保してほしい。
- * 県道・旧国道側からなど、あらゆる方向から出入りできるようにしてほしい。
- * 地元産の木材（旧日形小学校林）をふんだんに活用してほしい。
- * 屋外運動場は暗渠排水を万全にしてほしい。

【安全対策について】

- * 建設候補地付近の県道は、今後、益々交通量が増加すると思うので、通学路の安全の確保に配慮願いたい。
- * 建設候補地と並行している農道は狭く、中学校への送り迎えで朝夕の交通量が多いことから、小学校建設にあわせ拡幅してはどうか。
- * 通学安全対策に万全を期してほしい。
- * 自然災害だけではなく、通学路には一方通行の交通規制を設けるなど、交通安全対策も考慮して進めてほしい。

【今後の進め方について】

- *各小学校で行われている伝統芸能の継承に不安があるので、十分に検討してほしい。
- *地域づくりの観点からも、時間がかかっても多くの意見を聞いて、ゆっくりと学校づくりを進めるべきである。
- *地域との連携について、学校と他の施設を想定しているようだが、親としてみれば、見守りボランティアや鶏舞ボランティアを考える。連携の視点を多様に考えてほしい。
- *学校づくりには、PTAの声をしっかりと生かして進めてほしい。

【その他】

- *廃校後の校舎等の活用についても検討し進めてほしい。

※ まとめとして、「涌津字下原地内」は統合小学校建設候補地として理解が得られたものと判断する。

◎各会場における質疑応答等の要旨

○永井市民センター会場

【質疑の要旨】

- Q. 「より安心感」がある、の意味は何か、また、「地震・洪水などの自然災害に対して安全性が高い」、「立地場所として優れている」の表現の内容は。
- A. 「より安心感」の表現であるが、防災マップ上においては両候補地とも安全性は確保されているが、川の側に建設することに対して危惧する声も聞かれた。両候補地とも大差のない中で川から離れた場所ということでそうした表現をした。
安全性については、大雨の際にハザードマップの浸水区域に入っているかいないかを点数化したもので、また、立地場所として優れているかについては、周辺景観等を点数化したものである。
- Q. 今日、日本全国で豪雨災害が起きており、花泉地域でもこうしたことが心配される。300～400 mmの豪雨は想定されているか。
- A. 厳密な計算をしたものではない。高い場所であれば崖崩れの危険や垂炭鉱跡地の危険性がある。平場しかない中で今回の場所を選定した。今後、より安全性を高めていきたい。
- Q. 敷地面積 30,000 m²とあるが、その根拠と校舎を何階建てにする構想か。
- A. 校舎及び施設の配置により違ってくるが、校舎等施設の敷地に約 12,000 m²～13,000 m² 運動場は 200mトラックがとれる広さで、ソフトボールと野球が同時に練習できる広さとし、14,000～15,000 m²、駐車場等約 5,000 m²を含め 26,000～28,000 m²、盛り土をして建設することから法面なども考慮し 30,000 m²は必要と考えている。
校舎は 2階建て、敷地への配置によっては 3階建てもある。
- Q. 校舎と平行に 100mの直線コースの意味はということか。
- A. 学校校舎から容易に子供たちを確認できるということである。
- Q. 候補地に農地の基盤整備区域は含まれるのか。
- A. ほとんどが基盤整備区域内であるが、基盤整備後 8年を経過している。
- Q. 候補地が農道に接する場合に、農道を通行する車両が増えると思うが、その対策は。
- A. 通学対策については、用地が確定次第、検討を進めていくこととなる。
- Q. 現在の花泉地域全体の小学生の数と平成 34 年度時点の小学生の数は。
- A. 今年度は 645 人で平成 34 年度は 513 人になる見込み。
- Q. 新設の小学校に児童館（放課後児童クラブ）は含まれるのか。
- A. 放課後児童クラブのことかと思うが、市の方針として、小学校新設の場合は学校内に放課後児童クラブを新設することとなっている。今後、町内で現在開設している 2 団体とも意見交換をしながら進めていきたい。
- Q. 子供の声が聞こえなくなるという寂しさがある。放課後子ども教室はどうなるのか。
- A. 放課後子ども教室の在り方については、今後、専門部会で検討していく。

日形地区は日形小統合後においても日形市民センターで開催している。

Q. 学校づくりに対しての要望がある場合の窓口は。

A. 学校づくり推進委員会の事務局である地域振興課までお願いしたい。

全戸配布している学校づくり推進委員会だよりも、お気づきの点は事務局である地域振興課に連絡願いたい旨記載している。また、学校づくり推進委員会委員には、学校関係者、地域協働体のメンバーも入っているのでそちらにお話をいただいてもよい。

【意見・提言等の要旨】

1. わかりやすい場所であり、通学においても高低差が少なく、中学校・図書館との連携も図られ易く良い場所と思う。
2. 現在の中学校は子の送迎の車で渋滞している。路上に停車する車で事故につながることも考えられる。新設小学校には十分な駐車場の確保をお願いしたい。

○涌津市民センター会場

【質疑の要旨】

- A. 比較検討の結果、上三ノ町地内と下原地内は僅差だったということだが、水害時において実際の安全性はどれくらい違うのか。
- Q. 候補地は水田なので現在の花泉中学校校舎よりも低い。上三ノ町地内、下原地内とも同じレベルの高さであり、浸水リスクも同じと考えるが、下原地内は旧国道に接しており、また、金流川より離れているという点で、より安心感があると考えている。
- Q. 消防署の目の前の立地だと緊急出動時のサイレンの音が気になるのではないか。
- A. 校舎の配置については、今後検討していくこととなるが、旧国道のすぐ脇に校舎が建つことはないと考えている。
- Q. スクールバスは小中同乗となるのか。
- A. 遠距離通学に係る国の補助基準では4km以上の児童がスクールバスによる通学の対象となるが、今後、推進委員会内の通学対策部会で検討される。
- Q. コメリ、薬王堂付近の十字路はこれまで、3～4回の事故が起きている。今後、さらに交通量の増加が予想される。信号機の設置など安全確保が必要ではないか。
- A. 今後通学対策部会で検討される。信号機設置等については関係機関に要望していきたい。また、ローソン・千葉写真館側には歩道がない。県へ要望し開校時には安全性を確保できるようにしたい。
- Q. 用地の買収はこれからか。
- A. 教育委員会において、候補地として正式に決定した後となる。
- Q. 現在の子ども会活動については集落単位だが、統合後は地区単位に変わるのか。
- A. 今後、PTA・地区活動部会で検討されることとなるが、伝統芸能等も含め、ご意見等を事務局、学校にあてあげてほしい。

Q. 今後、開校までの間にこうした懇談会は設けられるのか。出された意見が反映されているか、確認ができるのか。

A. 推進委員会だよりを通じて、検討した内容等を皆さんに周知していく。今のところ懇談会の予定はないが、必要に応じ開催することとなる。

【意見・提言等の要旨】

1. 建設候補地と並行している農道は狭く、中学校への送り迎えで朝夕の交通量が多いことから、小学校建設とあわせ拡幅してはどうか。
2. 以前、花泉バイパスが冠水したが、この付近は冠水しなかった、最適の場所と思う。
3. 複数案ではなく1案で良かったと思う。複数案だと駆け引きが生じ、もめる原因になったと思う。

○油島市民センター会場

【質疑の要旨】

Q. 小中連携は近い場所の方が良いのか。

A. 一関市は、小中連携を今後もすすめていくこととしている。密接な連携を進めるためには距離は近い方が良い。

Q. 菅原循環器内科前の県道が通学路になると思うが、現在、歩道の整備をしているようだが、自転車は歩道を通ることが出来るのか。安全な通学路にしてほしい。

A. 基本的には自転車は歩道を通行できない。安全対策については、用地決定後、通学対策部会で検討されることとなる。

Q. スクールバス等の乗り入れは旧国道側からになるのか。

A. 入口がどこかは決まっていないが、学校用地については、旧国道と同レベルまでとはいかないが、土盛りをして高くする。県道側、旧国道側と入口が分かれば登下校時のラッシュが軽減できるかと考える。

Q. スクールバスは通学距離何キロの児童まで乗せることになるのか。

A. 今後、通学対策部会で検討されることとなる。

Q. 平成34年の統合時における児童数は。

A. 513人となる見込み。

Q. スクールバスは小学校・中学校混乗させるのか。

A. 今後、通学対策部会において検討されることとなる。

【意見・提言等の要旨】

1. 交通安全対策に万全を期してほしい。

○金沢市民センター会場

【質疑の要旨】

- Q. 選定基準の中で花泉地域内の中心部がなぜ一番重要なのか。地価を勘案した場合むしろ中心部を外した方が財政的に良いのではないか。
- A. 平成25年度の花泉地域学校規模適正化検討委員会の提言で中心部付近とされていることから尊重した。また、徒歩通学の児童を考えても中心部が適切と考え、スクールバスが同じ時間帯に全方向から出発できることなども考慮し、中心部を重要視したものである。
- Q. 徒歩の児童を前提としているが、それはスクールバスで対応できるのではないか。もともとその場所を想定していたからではないか。
- A. なるべく多くの児童が、徒歩で通学できる場所に校舎を建設した方が良いと判断したものである。
- Q. 中心部以外は考えなかったのか。
- A. 提言を尊重した。
- Q. 提言自体に中心部の考え方があったということか。
- A. 提言書の中には「校舎の位置については、花泉地域内の中心部とすることが望ましい」との一行しかないが、中心部という点については議論された内容と聞いている。市が進める小中連携を考えれば、中学校の場所を意識し考える必要がある。
- Q. 金流川近辺であるが、洪水は絶対におこらない場所か。
- A. 絶対とは言えないが、防災マップ上は安全と確認した。学校においては、気象情報等により下校させる場合にも早く対応できる場所と判断した。
- Q. 統合後で使われなくなった校舎の利活用はどのように考えているのか。
- A. 今段階で明確な活用は検討していない。旧日形小の体育館は地域で活用している。活用策として考えた場合、①地域での活用②行政として別な施設として再利用③広く行政以外に貸し出し売却等ということになるかと思う。段階を踏んで検討していくこととなるので、地域の方々からも知恵をいただきたい。
- Q. m²あたりの買収単価について教えていただけないか。
- A. 候補地が決まり次第、不動産鑑定を行い、それを基本にして地権者と交渉していくこととなる。
- Q. 盛土をされると思われるがどの程度に盛土をするのか。
- A. 地形測量等が必要であり、どの程度の盛土が必要となるか、現時点では詳細をお知らせできないが、安全性を確保する考え方である。具体的には、校舎を建設する場所は高くし、グラウンドはそれよりは低くなると考えている。

【意見・提言等の要旨】

1. 中心部が前提ではなく、子どもの教育環境、安全性を優先させるべき。
2. 統合することにより児童はこれまでよりも朝が早くなる。朝食をきちんととるか不安だ。
3. 各地区で行われている伝統芸能の継承が不安だ。

○花泉市民センター会場

【質疑の要旨】

- Q. 花泉支所から半径1km以内ということだが、妥当性はあるのか。また、子供の安全を第一に考えれば半径1kmの範囲に理由があるのか。
- A. 中心部の考え方を統一してから検討に入った。中学校との連携、人口の多いところ、人が集まる場所を中心部と考えた。
- また、「中心部」についてはこれまで漠然としていたことから、様々な観点から検討を進め、花泉支所を中心として半径1kmを「中心部」と定義した。中心部としては皆さんにご理解いただけるものと思う。
- Q. 既存の小学校を使わない理由は。新しい場所へ建設するメリットは。
- A. 平成25年の花泉地域学校規模適正化検討委員会の提言に、中心部に一校新設でとまとめられていることから、その方針に沿って検討した。
- Q. 中心部から離れたところに住む子は9年間遠い場所へ登校することになる。スクールバスに乗り遅れば登校できなくなり、親の負担が増えるのではないか。
- A. 中心部の方が、どこからでも均一性が取れるという考え方もある。
- Q. 支所長は全体の意見としてまとめたいのと思うが、まとまったわけではない。色々な意見を尊重してほしい。
- A. どこかに決めなくてはならず、現在はプロセスの途中であり、結果としてまとめていかなければならない。
- Q. 災害のことも心配であるが、運動会、学習発表会時の駐車場が心配だ。
- A. 用地面積の3万㎡の考え方の中には駐車場も含まれているが、保護者が多く集まる行事等の場合は、中学校や支所の活用も考えられる。
- Q. 小学生は発達段階だ。用地選定基準はどのような子を育てることを考えて作ったのか。
- A. 基本構想・基本計画から選定基準は引用されている。
- Q. 自然の多い場所では、子どもは秘密基地を造ったりし自分たちでルールを作る。しかし、平場に学校を建てるとグラウンドでの野球やソフトボールなどは、社会のルールとなる。その時期にしかできない体験をさせるべきであり、ゆとりの空間を加味してほしい。
- A. 学校運営に関わることであり、学校経営部会において検討されることと思うので、色々な可能性を議論していただきたいと考える。
- Q. 各候補地の安全性で議論された内容を教えてほしい。
- A. 老松字寺田地内(1)、(2)については、蛭沢川の内水により、過去に国道バイパスが冠水したことがある。涌津字二ノ町地内については、浸水はないが十分な用地が確保できない。涌津字上三ノ町地内、涌津字下原地内とも盛土をすることにより安全性は確保されるが、上三ノ町地内は金流川の側であり、川の側に建設することに対して危惧する声も聞かれること。花泉字林ノ沢地内については、安全性は高いと思われるが、造成費が多く

掛かること、さらには新たな通学路を設置しなくてはならない、ことなどが議論された。

Q. 住民との連携とあるが、町場であればあるほど地域との連携がとれないのではないか。

A. 老人ホームや近隣する施設との交流のしやすさはある。

【意見・提言等の要旨】

1. 地域づくりの観点からも、時間がかかっても多くの意見を聞いてゆっくり学校づくりを進めるべき。
2. 安全性についてだが、雨や雪が降ると親が登下校を送迎し渋滞となる。生徒が道路を横断することもありかなり危険に感じている。災害だけでなく、一方通行を作るなど交通安全も考慮して進めてほしい。
3. 盛土をするとのことだが、赤荻の地震災害も踏まえ地盤を考慮してほしい。
4. 地域との連携について学校と他施設と想定しているようだが、親としてみれば、見守りボランティアや鶏舞ボランティアを考える。連携の視点を多様にして考えてほしい。

○日形市民センター会場

【質疑の要旨】

Q. 正門はどこになるのか。あらゆる方向から出入りできるようにしてほしい。

A. 正門、裏門についてはまだ決まっていない。消防署側、中学校側双方より入れるように検討していきたい。

Q. 用地取得について、地権者の同意の見通しは。

A. 用地の地権者については、ご理解をいただくよう今後進めていく。

Q. 校舎の大きさはどれくらいになるか、また、駐車場はどれくらい確保する予定か。

A. 敷地面積は駐車場スペースも含め、約 30,000 m²を取得したいと考えている。

Q. 廃校舎が7つになる。その活用についても考えて進めていただきたい。

A. 活用の考え方としては、①地域で活用②市が別用途で公共施設として利用する③民間へ貸出し、譲渡④古い順に取り壊し、というような考え方である。

Q. 農地を取得することにより、一部の農地が残ることはないか。残ると見栄えが悪い。

A. 残らないように進めていく考えである。

Q. 各地区の懇談結果はどのように知らせるのか。

A. 学校づくり推進委員会で懇談会の様子を報告する。その後、推進委員会だよりを通じて皆さんにお知らせすることとなる。

【意見・提言等の要旨】

1. 小学校建設にあたり地元産の木（旧日形小学校林）をふんだんに活用してほしい。
2. 新設するグラウンドの暗渠排水は万全にしてほしい。
3. P T Aの出席が少ないが、P T Aの声をしっかり生かして進めてほしい。

○老松市民センター会場

【質疑の要旨】

- Q. 花泉地域以外の小学校の統合の状況を教えてほしい。
- A. 千厩は H30 年度開校、東山は既に統合しているが H31 年度に改築移転ということで、現在校舎等を整備している状況にある。
- Q. 各地区で懇談会を開催し、異論がなければ小学校の建設場所として決定するのか。
- A. 懇談会終了後、学校づくり推進委員会で教育委員会に提言し、教育委員会において候補地を決定する。その後、議会の議決を経て予算化し、用地の取得となる。
- Q. 地権者に協力は得られそうなのか。
- A. 地権者に協力をいただくよう努めていきたい。
- Q. 今回の候補地の面積は花泉中学校と比べてどちらが広いのか。
- A. 中学校は約 38,000 m²あり中学校の方が広い。
- Q. 閉校した後の小学校の活用は。
- A. 手順を踏みその活用を考えていくが、活用方法としては、①地域で活用②市が別用途で公共施設として利用する③民間へ貸出し、譲渡④古い順に取り壊し。というような考え方である。

【意見・提言等の要旨】

1. 数年前の学校規模適正化の議論の時に永井地区から 2 校案が強かった。永井地区から異論が出なければ 1 校案はまとまるものと思う。